

このまちを 楽しもう！ このまちで もてなそう！

# 「エコティかわね」



## はじまる

「川根本町エコツーリズムネットワーク」は「一般社団法人エコティかわね」へ。  
約8年間、「エコツー」の愛称で親しまれ、この町に常に新たな風を巻き起こしてきた組織は、4月から再スタートを切りました。  
ゴールデンウィークに開催されたプログラム(催し)を通して、関係者の思いと地域資源を生かしたエコツーリズムの魅力に迫ります。

### 水と遊ぶ～ 5月3日(火・祝) 地名区「サンゴーカントリーともしび」ほかで開催

#### 水に学び、水と遊ぶ

#### 自然満喫プログラム

鳥のさえずりが響く午前8時すぎ。地名区の「サンゴーカントリーともしび」に4組12人の親子連れの参加者が次々と集まってきました。

事務局からの説明と参加者一人一人の自己紹介の後は、ストレッチ。これは、けがを予防するだけでなく、気持ちもほぐすための工夫です。

準備ができたなら、地名集落を巡るまち歩きに出発。水力発電所跡や地名用水など、「水」とともに生きてきたこの地域の歴史を学びました。「このお地蔵さまはね、まだここが川の一部だった頃」。地元ガイドならではの説明に、大人も子どもも興味津々に聞き入っていました。

「ともしび」に戻ってきた参加者は、近くの大井川支流の沢へ。流れをネットで囲った天然の「いけす」で、元氣よく動き回るアマゴに悪戦苦闘しながら、つかみ取りを楽しみました。

昼食は、つかみ取りしたアマゴの塩焼きとバーベキュー。はらわた取りにも挑戦し、おいしくいただきました。



#### 「ふれあい」で地域のファンを増やす

簡単に言えば、誰かが「やりたい」と思ったことをプログラムにしてみんなで楽しむ、というのが「エコティかわね」の活動の特徴です。そして、プログラムへの参加をきっかけに、お客様にこの地域のファンになってもらうことを目標にしています。

お客様の中で圧倒的に多いのが「口コミ」をきっかけにした参加です。以前参加された方が、知り合いや家族を連れて来てくださるという傾向が多く見られます。プログラムを通じて、川根の自然や人の魅力を十分に感じ取っていただけているからではないでしょうか。

組織の現状としては、運営スタッフの数が不足していること、また町内からの参加が少ないことを課題に感じています。観光で訪れる人の数のことを「交流人口」といいますが、体験型プログラムを通して町外からのお客様と町民とがふれあう機会を創出し、文字通りの「交流」人口を増やしていけたらと考えています。



(一社)エコティかわね  
代表理事  
芦沢 哲哉さん(奥泉区=59歳)

## 「一般社団法人 エコティかわね」

ECO-T  
KAWANE

◎事務所所在地  
桑野山424-6 (桑野山貯木場敷地内)  
☎(58)7000  
◎会員数：30人 (4月末現在)

◎名前の由来 ECO(エコ) + T(ティ)  
ECO・・・「Ecology(環境)」と「Economy(経済)」  
T・・・Tourism = 観光 Tea = お茶 Tree = 木、林業  
Community = 地域コミュニティ Team = チーム  
「観光はもちろんのこと、農業や林業などの他ジャンルとも連携して、チーム一丸でまちづくり全体に取り組んでいきたい」という思いが込められています。



▲会員手作りの木のカウンターが香る事務所。「単なる事務所ではなく、気軽に立ち寄れる情報交換・交流の場にした」と芦沢代表理事は期待を寄せる。

## ダイダラボッチの里 水の恵み 体感ツアー ～ 水に学び、

参加者に聞きました！



小野田 健吾さん一家(浜松市南区)

### 家族の絆を深める機会に

インターネットでプログラムの記事を見つけたのがきっかけで、初めて参加しました。一番下の子がまだ小さく、今回のような手軽なプログラムはとてもありがたいです。

まち歩きは、子どもたちはもちろん私たち大人にとっても勉強になることが多く良かったです。昼食づくりでは、物怖じせずにアマゴをさばく子どもたちの様子に驚く一方で、たくましくなったなと感じうれしく思いました。

家庭の中だけでは教えきれないことが多いと痛感しているので、またぜひ別のプログラムにも参加して親子で楽しみたいと思います。

午後からは、大井川でのカヤック体験を行いました。スタッフがの手ほどきで、比較的流れが緩やかな浅瀬でゆったりとした時間を楽しみました。豊かな水の恵みを楽しみながら体感し、感謝の気持ちを新たにします。参加者にとって、「当たり前前」を見直す貴重な機会となったようです。



### 「楽しい」思いを大切におもてなし

3年ほど前に趣味でカヤックフィッシングを始めたことをきっかけに「エコツアー」にスタッフとして参加するようになり、今はガイドも担当しています。

お客様から参加費をいただく以上、責任感と向上心を持ってガイドやスタッフを務めるべきだと思っています。質を高めるためにガイドの研修会を受講したり、勉強のために他の地域で開催されているイベントに参加したりするなどしています。

とはいえ、あくまで根底にあるのは「自分自身が楽しもう」という気持ちです。何より自分が楽しめていないとお客様にも楽しんでもらえず、魅力も伝えられないと思います。

皆さんも、釣りや山登り、料理など、得意なことや熱中する趣味があるはずですよ。ぜひ、その「大好き」や「楽しい」という思いを生かして、「エコティかわね」のプログラムと一緒におもてなしをしてみませんか。



(一社)エコティかわね  
会員(ガイド)  
中村 哲也さん(地名区=35歳)